

www.foro.jp

# foro フリースクール フォロ

## News Letter

2003年も残すところわずかとなりました。今年も、フォロへのご理解、ご支援をいただき、ありがとうございます。おかげさまでフォロは、創設以来3回めの新春を子どもたちと迎えることとなります。秋が深まるころから新しくフォロにつながる子も増え、スペースの空気も数カ月前とまたちがってきました。メンバーどうし緊張が解け、日常におしゃべりやいろんな活動で仲良くすごすことが当たり前になったぶん、今までに経験しなかった問題も持ちあがったりします。年明け以降のひとつひとつの活動が、より意味のある大事なものになることと思います。

2004年も、どうぞよろしく願いいたします。

2003年12月27日

特定非営利活動法人 フォロ  
代表理事 花井紀子



まがたま  
勾玉をつくりました!

## フォロに出会って

岩本 怜美(16歳・フォロ会員)

私は小学校のときから、学校に行くのがイヤでたまりませんでした。それで、中1のとき「学校に行きたくない」って言ったら、父さんが「行くのやめ」とあっさりOKしてくれたことに、内心おどろきました。母さんも了解してくれたから、学校に行くことをやめました。でも、学校に行かないことは悪いことなんじゃないのかと感じるようになってきて、それでも行きたくない、という思いがあって、すごく悩みました。

そんなときに、母さんがフォロのホームページをみつけて、行ってみたいかどうかと勧めてくれて、1回だけでもと思い、行ってみようと思いました。

実際に行ってみて話を聞くと、自分にあったところだなと思い、体験入会をしてからは、自分のなかにあったフリースクールのイメージ(来るのは自由だけど、学校のようにカリキュラムが最初から決まっている)とは、まったくちがっていました。

最初のころは緊張して、行きづらかったけど、自分から「絵本の時間(picの字漢)」を提案し、はじめてみて、自然とフォロではいろんなことができて楽しい、と思えるようになりました。家ではできないことがフォロでは気軽にできるから、それがフリースクールのいいところだと思います。

## 最近のフォロは

### 秋にフォロ2周年記念パーティ開催!

10月11日。この日はパーティがふたつ、開かれました。朝から準備をしての子どもパーティには、子どもたち22人にボランティア・スタッフ10人が参加。屋台を並べての食べ物にドリンク、デコレーションケーキも3つ登場! 特設ステージではギターやベースの演奏やゲーム大会で午後いっぱい盛り上がりました。「自分たちの2周年なんだから、すべて自分たちでやろう」と子どもたちで実行委員会を結成して1カ月。いろんなアイデアが飛び出しすぎて、なかなか分担が決まらなかったりしましたが、とくに大きい子たちが小さいメンバーを気づかい、楽しめるよう工夫して準備をしていたのが、印象的でした。

夜は、40人くらいが集って大人中心のパーティ。親をはじめNPO会員やさまざまなかたちでの協力者の方々に駆けつけていただき、歓談・交流のできたひとときでした。当日、気持ちをお寄せ下さった方、ありがとうございました。

### 進路と学習タイム

30数人メンバーのうち、中3年齢の人が11人。今の時期、「進路をどう考えるか」が間近に迫ります。現在「個別学習」の時間は、固定しているものだけでも週に3コマあります。講師の方もクタクタになるくらいに、参加している子は(年齢もバラバラですが)とても真剣に取り組んでいます。学校と距離を置いていても、学ぶ力が劣るわけではなく、「やりたい」と思うときまで、「本気」って、とっておけるものだと感じます。漠然とした不安や焦りが募ることもあるので、12月には、「高校入試」をテーマとした時間も持ちました。

進路についての具体的な情報や学習面でのサポートと、進路についてさまざまに掘り下げて考える時間と、両方を大事にしていきたいと思います。

(スタッフ・花井紀子)



2周年パーティーでケーキカット



「わたしの仕事館」でアフレコ体験



英会話の時間でインドからのゲスト



電車の車庫を見学



野球大会のようす(鶴見緑地にて)

### 話し合うことの大切さ

最近、子どもたちが話し合っ、ミーティングのルールをつくりました。ルールをつくることになったのは、「ミーティングが長くてだるいし、つまらない」「自分の意見を言う気になれない」など、子どもたちの声からでした。

決まったルールは、相手の話をよく聴いて意見する、具体的なことは実行委員会や企画ミーティングなどで話し、ミーティングが長くならないようにする、などです。

「意見を言った人が最後まで責任を持たなければならぬ」と思うと、気が重くて意見する気になれない」「人数を必要とする企画では、参加者集めに苦労する」「企画段階で意見を言わずに、参加してから文句を言われると、もう二度としたくなくなる」などの声もありました。お泊まり会、スポーツ、2周年パーティー、子どもHP検討委員会、ただいま進行中のプロジェクトW2(スキー旅行企画)のように、時間・労力・参加者・実行体制などが大きくなればなるほど、本当にいろいろなことがあります。

何か困ったことがあると、「何とかするのがスタッフとしての仕事やろ!」と子どもに言われることがあります。しかし、スタッフが子どもたちのために何かをしてあげることになってしまえば、いったい誰が企画・活動の主役なのか、わからなくなってしまいます。それに、問題があったとしても、スタッフだって、どうしたらいいのか、よくわからないこともたくさんあります。よくわからない者が何とかしようとしたところで、よい方向へ物事が進むことなどないような気がします。むしろ、いろいろなことがあって、どうしたらいいのかわからなかったり、何か問題があって困っているとき、子どももスタッフもいっしょになって話し合うことを大切にしたいと思っています。(スタッフ・加藤直人)

### 自らの手で、ゆっくりと

世の中はいま、環境問題という大きな壁にぶつかっています。大量のゴミ、添加物入りの食品など、すべて効率を重視してきたために生み出されたものです。もっとゆっくりいこうよ、という思いを込めて「エコのじかん。」をはじめました。フリースクールは学校に比べ、とても「スロー」です。時間をかけて、身近な環境問題を子どもたちと少しずつ考えていこうと思っています。

そして、大好評の「ビーズであそぼ!」に加えて、「ハンドクラフト(手づくりを楽しむ時間)」がはじまりました。とにかく自分の手でつくってみよう! と、講師の方のサポートを受けながら、うさぎのぬいぐるみづくりに悪戦苦闘したり、季節に合わせてクリスマスグッズをつくりたりしています。子どもたちの集中力には毎回びっくりさせられています。

また、「絵本の時間」がリニューアル、その名も「picの字漢」になりました。絵本、イラスト、マンガ、小説、詩など、創作活動の幅も広がり、毎回どんな作品が生まれるのかとワクワクしています。(スタッフ・大浜裕美)



「うさぎのぬいぐるみ」づくり



中華バイキングのランチタイム

## 子どもたちと出会う

加野 直生 (ボランティア)

私は4月からフォロで週1回のボランティアをしますが、私の頭のなかは、ここにいたるまで変化し続けています。フリースクールに関心を持つようになったのは、ここ3~4年ですが、不登校については思春期以来の私の課題でした。私自身、高校時代、不登校とまでいかないまでも、人間不信におちいり、学校に行くのが苦痛でした。ほかに選択肢もなく、無理して学校へ行って、余計に悩みを増やしていました。この悩みは20代後半になってやっと解決されるのですが、ここでは省略します。

私は仕事をしながらも、不登校や心に悩みを持つ子どもたちとかかわりたい、自分が苦しんだだけに何か手伝いはできないか、そういう場所はないか、と考えていました。そうしたとき、フォロのホームページを見つけ、Talk-inフォロに参加しました。そこでかわされている話は非常に刺激的なもので、それからずっと参加するようになりました。それが去年の10月です。そして今年の3月、フリースクールにもっとかかわっていきたいと思い、いろいろ悩んだ末、仕事を少し減らし、週1回のボランティアをすることになりました。

### ●こんなはずじゃ……

ところで私の不登校のイメージは、自分自身の経験から見て、「暗い」、「弱い」そんな感じでした。ところが来ている子どもたちを見ると、たしかにおとなしい子もいる。でも何かめっちゃ元気な子もい

る。私は戸惑いました。支えてあげればいいのか、と思っていたのに、子どもたちの盛り上がりには私は取り残されていた気分。うーん……こんなはずじゃ……でも、そんなとき、Kくんはなぜか僕になついてくれて、Kくんと遊んだり、話したりすることで、フォロでの1日が過ぎていきました。

そしてこの夏、愛知での「登校拒否を考える夏の全国合宿」にも参加し、フリースクールにかかわる人たちのパワーにおどろき、フォロのスタッフの方ともゆっくり話す時間もあり、これから自分がどうするべきか少し見えはじめました。とにかくできることからしよう。とりあえず、Kくんと関係をしっかりやっていこう。あとはスタッフや、ほかのボランティアの人に任せればいい。できないのだから……。

### ●自然体で

でも、そうすると意外なもので、ほかの子どもたちとも徐々に自然に会話ができるようになってきました。スタッフの加藤さんに「自然体やな」って言われたときはうれしかったです。でも、私自身、以前は大きな思いちがいをしていたことが、最近になってやっとわかりました。不登校の子どもたちは特別ではないんだ。彼らはいま、一つの選択肢として不登校を選んでいるのであって、悩みはあっても、同情なんていらぬ。しっかり生きてるんだ。一人ひとり、ちがうんだ。フォロはそんな場なんだ、と。

今月1回のTalk-inフォロには参加していますし、スタッフとボランティアの交流会など、フォロの懐の深さを実感しています。でも、自分を一番変えてくれたのは子どもたちだと思っています。今後、自分がどう変わるか楽しみです。

## information

### NPO会員・支援会員の方へ

NPO会員、支援会員にご加入くださった方、会員を継続してくださった方、応援、誠にありがとうございます。おかげさまで、子どもたちの居場所を維持させておくことができました。更新期の会員の方には、継続のお願いを同封させていただきました。これからも、フォロを支えていただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。

◎郵便振替口座 00900-1-25564  
加入者名 フォロ

### 譲ってください

- ・小学生の遊べるもの(プラレールなど)
- ・調理器具(包丁、ゴムベラ、計量カップ、スプーン、皮むき器<sup>など</sup>)
- ・サンドバッグ、グローブなどスポーツ用品
- ・CDコンポ、ラジカセ etc...

### Foro News Letter 第6号

発行日 2003年12月27日  
発行者 特定非営利活動法人 フォロ  
〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-1-3  
TEL06-6946-1507 FAX06-6946-1577  
mail to: info@foro.jp  
URL http://www.foro.jp